

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	保育所等訪問支援事業所　さんぽみち			
○保護者評価実施期間	2025年　4月　1日		～	2026年3月　1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	236	(回答者数)	128
○従業者評価実施期間	2025年　4月　1日		～	2026年　3月　1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	23
○訪問先施設評価実施期間	2025年4月1日		～	2026年　3月　1日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	118	(回答数)	113
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　3月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い支援員を多く配置しています。（公認心理師など）	医療的な視点で、対象児のみならず、発達障がいの特性などをお伝えするようにしています。	見立てについての研修を行ったり、発達についての資料などを配布するなど、訪問先の先生や支援員への働きかけでどんな事ができるのか考えていきます。
2	専門的な視点で具体的なアドバイスが訪問先の支援者に伝えることができます。保護者に対しても同様にアドバイスをを行っています。	訪問先の先生方に、発達障がいについての理解を促すために、わかりやすく説明することを心がけています。保護者へのフィードバックも丁寧に行っています。	より多くの訪問先の先生や支援員に、理解者になっていただき、地域の療育力を底上げを目指す。訪問に来てもらえて良かった、と思っていたけるように支援していきます。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	費用、緊急時の対応、事業所のルール、支援の目的や内容、年間計画など、利用にあたって重要な情報が事前に十分に説明・提供されていないと感じている方もおられました。	新規の方には細かく伝えているのですが、継続ケースの方には周知が足りない部分もありました。	令和7年4月より連絡アプリを導入し、周知の必要のある情報は、一斉に周知できるようにしていますが、まだ周知の方法に工夫が必要だと感じます。
2	一部学校等との情報共有や連携が十分でなかったり、意見の相違があったり、保護者が期待する連携が実現できていない状況がありました。	年に数回しか訪問できないこともあり、訪問先との関係性がまだ築けていないことは課題であります。	訪問支援としての意見を一方的に伝えるのではなく、訪問先の支援者の方の思いや意見もしっかり聞かせて頂いた上で、双方にとって有意義な話し合いにしていきたいです。
3	報告形式（書面・メール希望）や連絡のスピード、連絡手段（メール希望）に改善を求める声があり、保護者のご希望にお答えできていなかったケースもありました。	訪問後の報告については、支援員の勤務時間内に面談の時間を取れない場合も多く、電話連絡で丁寧にお伝えしていますが、一部報告が遅い、というご指摘も頂いております。	書面やメールで報告がほしいというご希望があるということが一定数あることがわかりましたので、電話連絡のみでなく、書面での報告もご希望があれば対応させていただきました。